

日本アジア投資株式会社 2011年3月期 決算補足資料

決算発表日:5月11日

(ご注意)本資料に記載された意見や予測などは、資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご了承下さい。また、本資料は情報の提供のみを目的としており、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的とするものではありません。なお、本資料内の数値は全て連結ベース(ファンド連結基準・従来連結基準、ともにそれぞれ記載)にて表示しております。

1. 経営環境	P.3
2. 2011年3月期 決算報告	P.4 - P.11
3. 参考情報	P.12- P.20

外部環境－主要インデックス推移



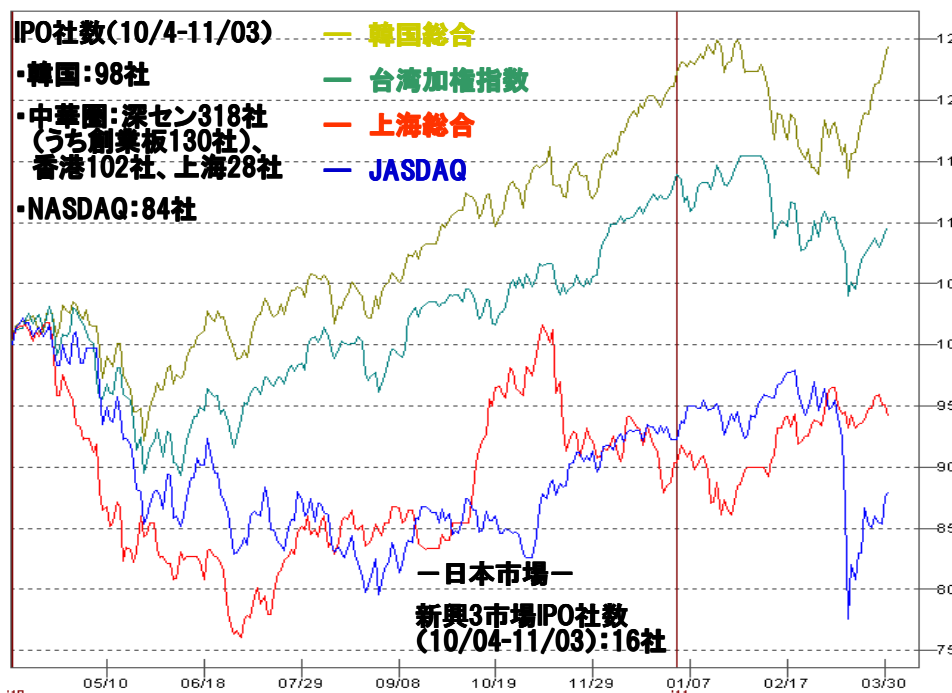
●株式市場動向

2010年4月以降のアジアの主要市場は、2010年6月を底に回復傾向にあるが、JASDAQ・上海総合は低迷が続いている。日本では、東日本大震災の影響を受け2011年3月に大きく下落している。またIPO市場は、依然として日本の低迷が続いている。

●為替動向

歴史的な円高局面を迎え、当社においても海外の投資資産の売却時に、為替変動の影響を少なからず受けた。

*2010/3/31を基準値100とする



2010/5/4 94.98円

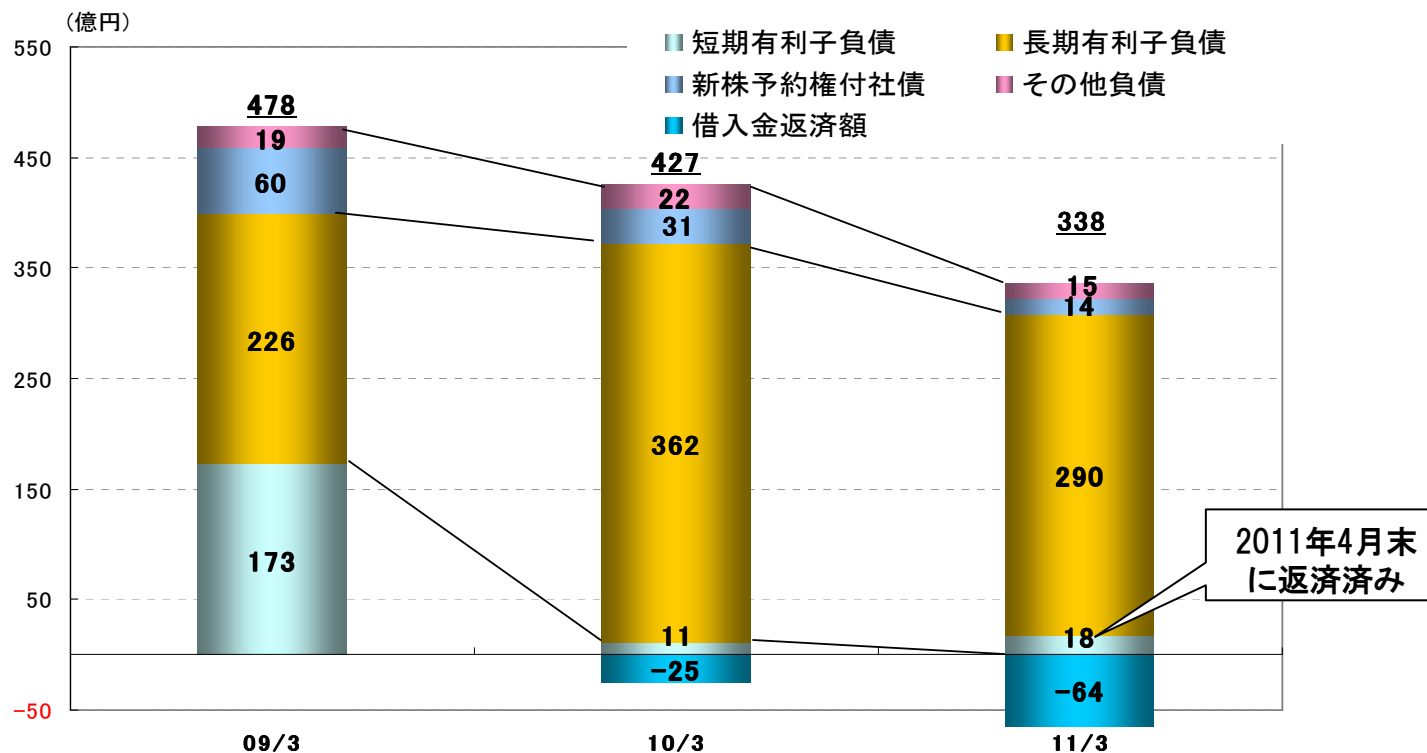


— 大幅増収・経常利益黒字化を達成 —

- ・IPOに依存しない多様なExitシナリオを実現し、増収・キャピタルゲインを獲得
- ・投資先企業の業績回復・安定化により、償却・引当負担が縮小し、営業原価が減少
- ・前期までのコスト削減策が奏功し、販管費を前年同期比37%削減
- ・急激な為替変動による為替差損6億円(従来連結基準)を吸収して、経常利益黒字化を達成
- ・特別損失として、投資有価証券の売却損10億円、事業再構築費用12億円等を計上

(単位:百万円)	10/3 従来連結 基準数値	11/3 従来連結 基準数値	増減率 (%)	10/3 ファンド連結後	11/3 ファンド連結基準	増減率 (%)
営業収益	7,414	10,979	48%	8,474	11,764	39%
営業原価	13,013	7,286	△44%	16,640	8,371	△50%
営業総利益	△ 5,599	3,692	-	△ 8,166	3,393	-
販売費及び一般管理費	3,787	2,399	△37%	3,544	2,239	△37%
営業利益	△ 9,386	1,293	-	△ 11,710	1,154	-
経常利益	△ 10,334	175	-	△ 12,679	111	-
当期純利益	△ 10,903	△ 2,044	-	△ 10,889	△ 2,039	-

2011年3月期 決算/負債の状況



← 従来連結基準 →

- ・有利子負債: 返済計画に基づき着実に残高を圧縮
2011/3期の期中累計返済額は64億円
さらに18億円の返済を、2011年4月末に実行済み
- ・新株予約権付社債: 買入消却の実施により、期初から残高が半減
14億円まで将来の償還負担が減少

2011年3月期 決算/キャッシュ・フロー計算書の概要



- ・ポートフォリオの着実な売却により、営業活動によるCFは71億円の黒字を計上、前年同期比76%の増加
- ・投資有価証券・固定資産の売却等により、投資活動によるCFは22億円の黒字
- ・借入金返済や新株予約権付社債の買入消却に伴う支出等、財務活動によるCFは78億円のキャッシュアウトとなり、期末の現金同等物は14億円増加

キャッシュ・フロー計算書

(ファンド連結基準)

(単位:百万円)	10/3期	11/3期	増減率(%)
営業活動によるCF	4,051	7,137	76%
投資活動によるCF	229	2,215	863%
財務活動によるCF	△4,126	△7,886	-
CFネット増減額	171	1,431	735%
期末残高	8,330	9,762	17%

〔連結損益計算書/収益の内訳〕 ファンド運営実績



- ・管理運営報酬等：売却の進捗や前期までの償却・引当等によりファンドの純資産が減少したことなどから、前期比で減少
- ・成功報酬：多様なExitシナリオ実現の成果として295百万円を計上
前年同期は、バイアウトファンドからの大型分配があったため、前期比では減少

(従来連結基準)

	前連結会計年度 平成21年4月 1日～ 平成22年3月31日	当連結会計年度 平成22年 4月 1日～ 平成23年 3月31日
投資事業組合等運営報酬 合計額	1,755	1,383
うち 管理運営報酬等	1,294	1,088
うち 成功報酬	461	295

〔連結損益計算書/収益の内訳〕 営業投資有価証券売却、償却・引当



・実現キャピタルゲイン:

IPOに依存しない多様なExitシナリオを実現したことで、売却高が前期比で増加し、実現キャピタルゲインを確保

・投資損益:

リーマンショック後の景気の緩やかな回復に伴い、投資先企業の業績の回復や安定化が進み、営業投資有価証券評価損や投資損失引当金繰入額が減少、戻入も発生し、投資損益も黒字化

(従来連結基準)

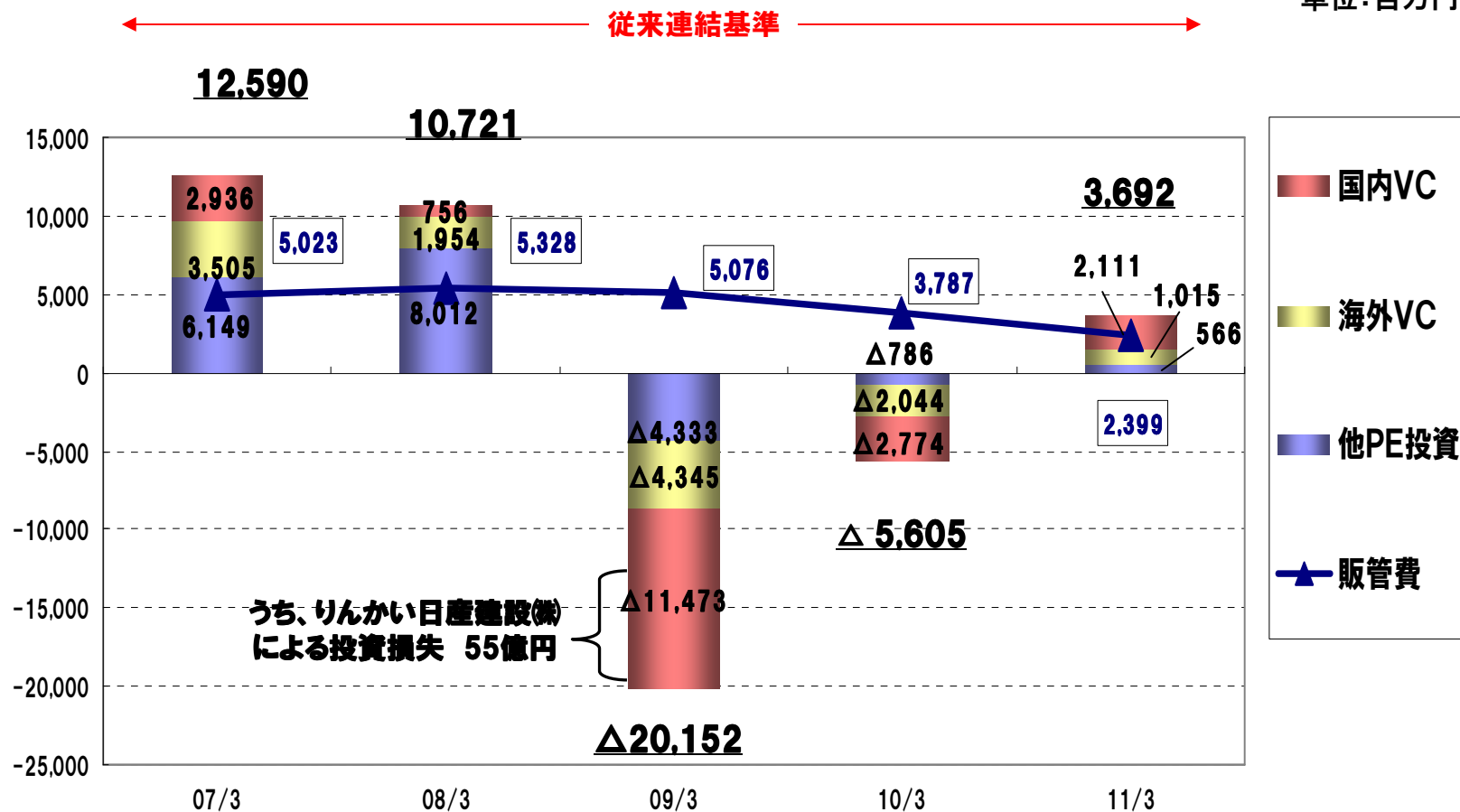
	前連結会計年度 平成21年4月1日～ 平成22年3月31日	当連結会計年度 平成22年4月1日～ 平成23年3月31日
営業投資有価証券売却高(A)	4,700	8,584
営業投資有価証券売却原価	7,279	7,308
営業投資有価証券売却原価(B)	4,450	6,680
営業投資有価証券評価損(C)	2,829	627
投資損失引当金繰入額(D)	5,151	△296

実現キャピタルゲイン(A)-(B)	249	1,904
投資損益(A)-(B)-(C)-(D)	△7,731	1,573

〔連結損益計算書/収益の内訳〕 投資部門営業総利益の事業別内訳



単位：百万円

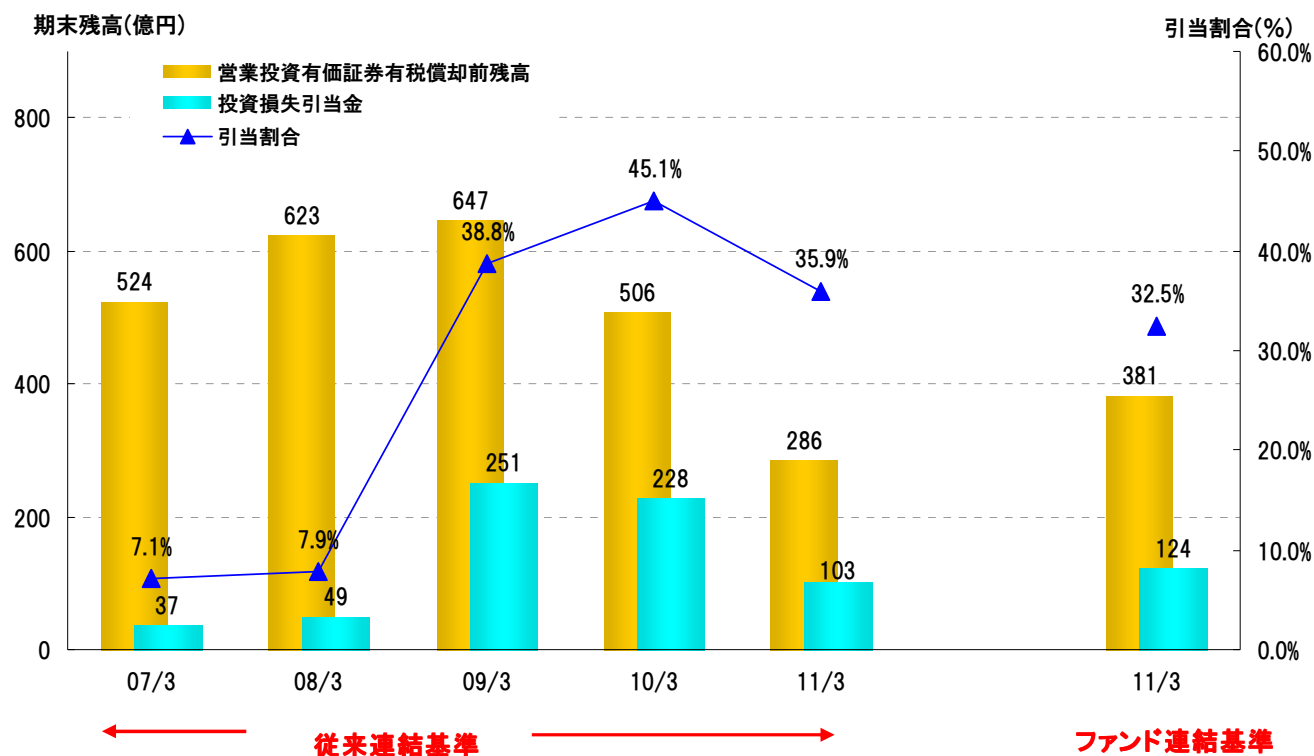


■2009年3月期の販管費は貸倒引当金及び貸倒損失を除いた数値。

〔連結損益計算書/費用・損失の内訳〕 償却・引当実績



- ・投資先企業の業績回復や安定化に加えて、償却・引当済の投資先企業の売却が進捗したため、引当金残高が減少
- ・償却・引当割合は35.9%(従来連結基準)と前期末比9.2%低下

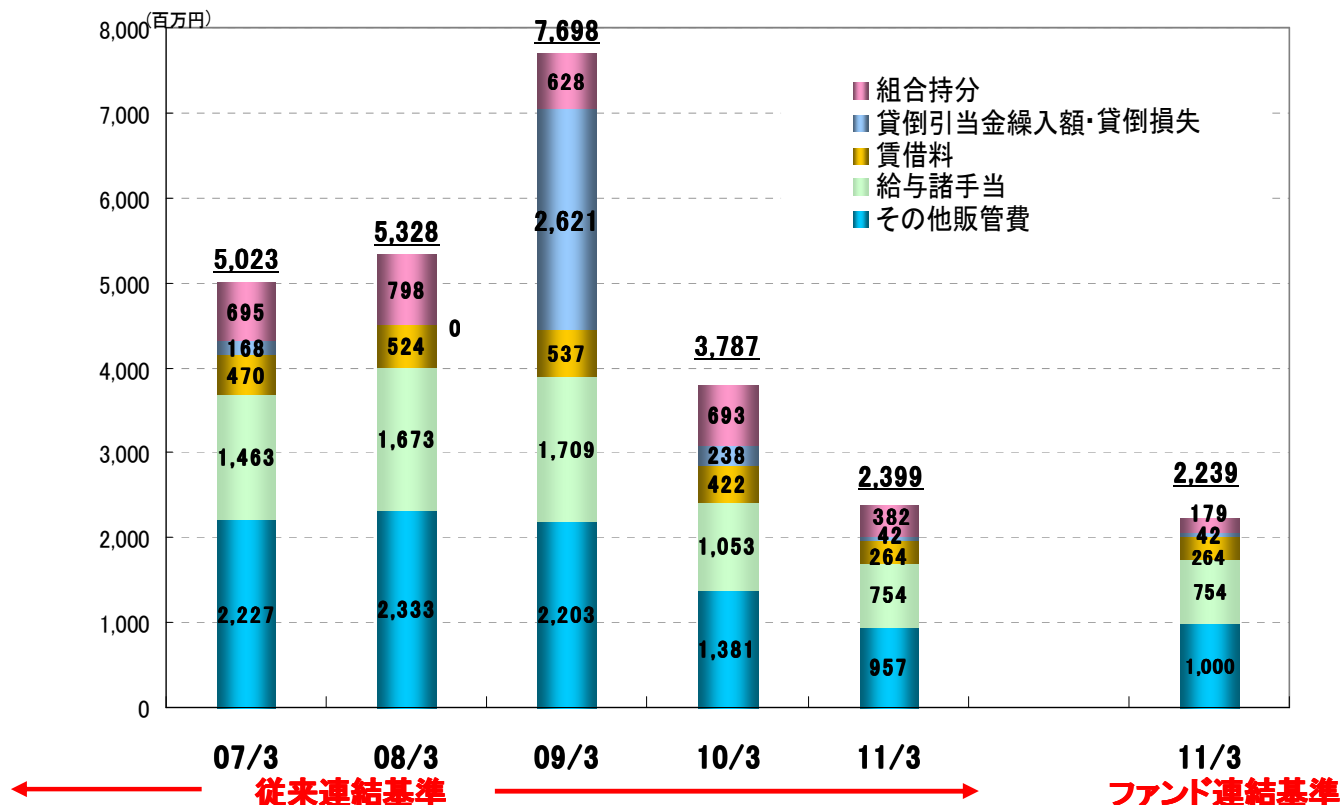


- ・上記の営業投資有価証券及び投資損失引当金の金額は、下記の調整を行っているため、連結貸借対照表の計上額と異なっております。
 - ・2008/3期より、投資損失引当金を設定している営業投資有価証券の一部について、投資資金の回収が困難と判断されたため、有税償却処理をした金額を含めて引当割合を算定しております。
 - ・引当割合は、営業投資出資金の振替額及び含み益を控除し、有税償却残高を加えた営業投資有価証券の残高に対する割合としております。
 - ・2005/3期より、営業投資有価証券残高に営業投資出資金を含めるよう会計処理を変更しております。
- 影響額：2007/3期57億円、2008/3期 43億円、2009/3期 36億円、2010/3期27億円、2011/3期16億円、2011/3期ファンド連結後14億円。

〔連結損益計算書/費用・損失の内訳〕 販売費及び一般管理費



継続的なコスト削減策が奏功し大幅削減を達成（前年同期比△37%）



※販管費比率は従来連結基準による

		07/3	08/3	09/3	10/3	11/3
営業総利益に対する販管費比率		39%	49%	-	-	65%
従業員数	連結	241	265	236	153	133
	単体	149	159	135	95	80

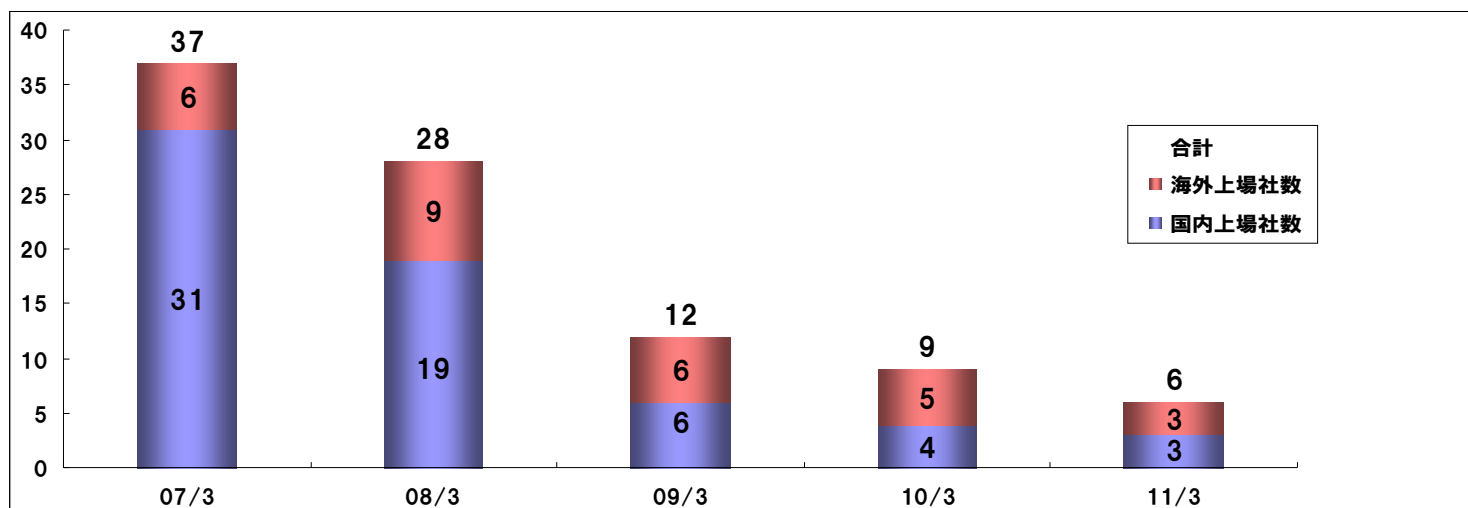
・ファンド連結後の「組合持分」には、投資事業組合持分経費の他、会社型ファンドの経費も含まれております。

投資業務 - 上場実績



上場社数(単位:社)

(本体+ファンド)



初値ベース投資倍率

(単位:倍)

	07/3	08/3	09/3	10/3	11/3
国内	8.1	2.6	3.5	1.3	1.9
海外	3.2	6.2	0.9	1.6	0.6

・新規上場件数には、07/3は3社、08/3は2社、09/3は3社、10/3は1社、11/3は1社の株式交換等による上場株式取得分を含めております。
 なお、初値倍率の計算には株式交換による上場株式取得分は含めておりません。平均初値倍率＝初値時価総額の合計／取得額の合計

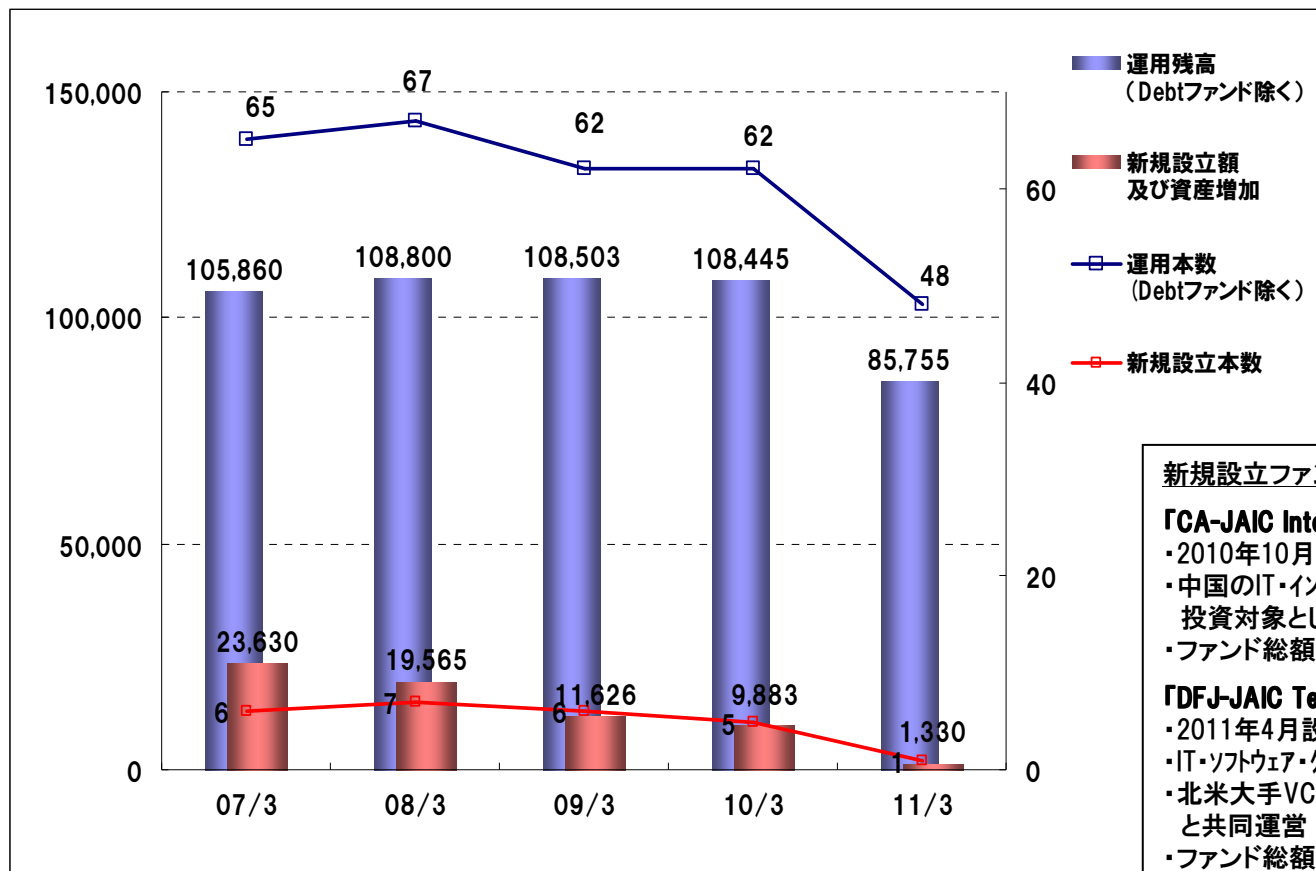
投資事業組合等管理業務 – 運用残高



運用残高と新規設立額/資産増加額の推移

(単位:百万円)

(単位:百万円、本)



新規設立ファンドの概要

「CA-JAIC Internet Fund II, L.P.」
 ・2010年10月設立
 ・中国のIT・インターネット関連企業を投資対象としたシリーズ2号ファンド
 ・ファンド総額16百万USD

「DFJ-JAIC Technology Partners, LP」
 ・2011年4月設立
 ・IT・ソフトウェア・クリーンテック関連企業を投資対象
 ・北米大手VCのDraper Fisher Jurvetsonと共同運営
 ・ファンド総額24.8百万USD(現時点)

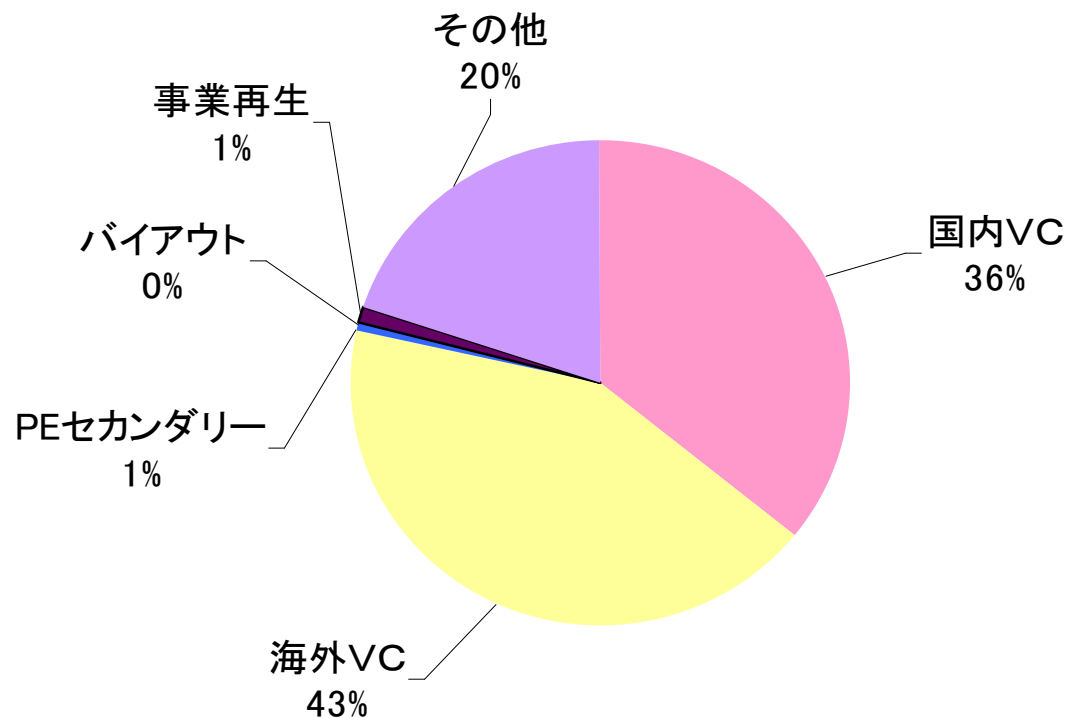
- ・11/3期より事業再構築の過程において取扱いを変更したファンドが除外されており、その影響額は9本11,562百万円となります。
- ・ファンド運用金額はコミットメントベースの金額であり、各事業年度末の為替レートで円換算しております。
- ・当社グループが運営のために必要な情報の提供を行っているファンド分が11/3期末のうち1本1,134百万円、10/3期末のうち10本13,909百万円含まれております。
- ・満期を迎えた後に清算期間に入っているファンドは上記の数値に含めておりません。

投資実行額 – 事業別



※2011年3月期の投資実行額の事業別内訳

金額ベース(合計3,204百万円)



(本体+ファンド)

・他社ファンドへの出資持分額は含んでおりません。

投資実行額 – 地域別/業種別



地域別

(単位:社、百万円)

		10/3		11/3	
		社数	金額	社数	金額
日本		43	2,951	31	1,280
中華圏(中国、香港、台湾)		6	410	8	781
韓国		2	195	2	303
アメリカ		10	240	8	68
東南 ア ジ ア	シンガポール	-	-	2	76
	タイ	-	-	1	49
	ベトナム	-	-	1	112
その他		7	204	13	531
合計		68	4,002	66	3,204

(本体+ファンド)

業種別

(単位:社、百万円)

	10/3			11/3		
	社数	金額	1社 当り	社数	金額	1社 当り
QOL関連	17	551	32	16	295	18
IT・インターネット関連	20	855	43	16	1,098	68
素材・化学関連	3	348	116	9	729	81
機械・自動車関連	3	42	14	1	100	100
消費財関連	1	15	15	3	162	54
建設・不動産関連	3	53	18	-	-	-
小売・外食関連	1	0	0	-	-	-
サービス関連	3	209	70	5	98	19
金融関連	-	-	-	-	-	-
その他	17	1,926	113	16	718	44
合計	68	4,002	59	66	3,204	48

- ・QOLとは、バイオ、医療機器、医薬品、環境、福祉・介護などの生活の「Quality of Life」を高める事業分野。金融とは、証券業・銀行業・生損保業、投資顧問業など。
- ・IT・インターネットとは、ITサービス、ソフトウェア、ハードウェアなどを含めております。
- ・11/3期より「VC投資以外のPE(プライベートエクイティ)投資等」を含めております。よって、10/3期と開示区分が異なるため、10/3期の数値は、従来開示していた数値と一致しません。
- ・国別、業種別区分における「その他」にはPEセカンダリー投資の社数及び投資金額を含めております。PEセカンダリー投資における会社数については、1ファンドを1社としてカウントしております。

投資残高 – 事業別



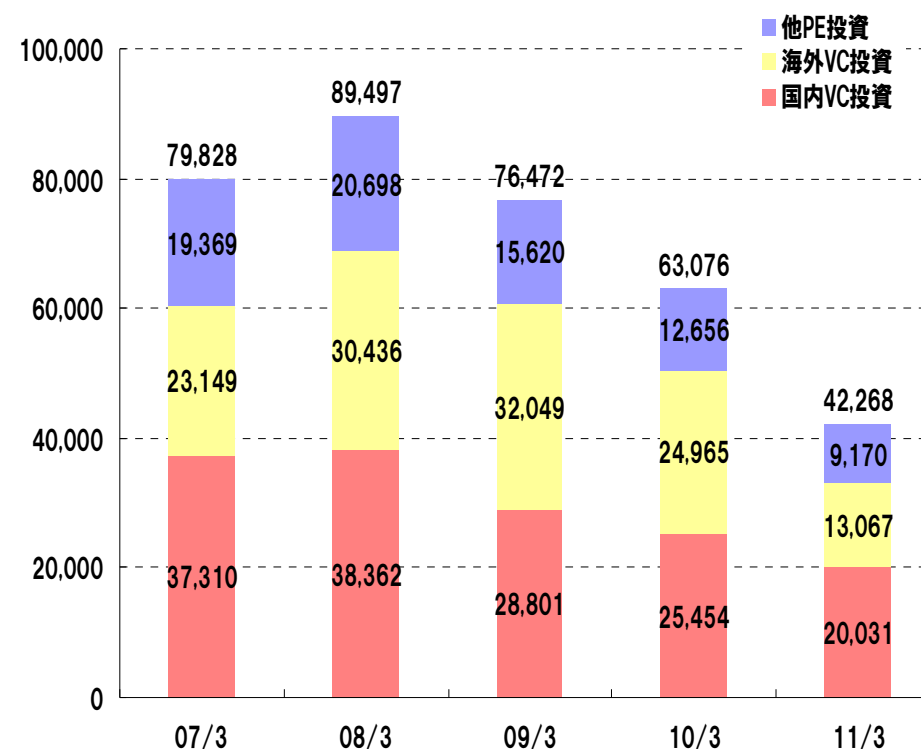
(単位:社、百万円)

	10/3			11/3		
	社数	投資残高	1社当り	社数	投資残高	1社当り
国内VC	448	25,454	57	341	20,031	58
海外VC	205	24,965	121	123	13,067	106
他PE	58	12,656	218	49	9,170	187
合計	711	63,076	89	513	42,268	82

(本体+ファンド)

- ・他社ファンドへの出資持分額は含んでおりません。
- ・他PE投資業務＝バイアウト投資、事業再生投資、PEセカンダリー投資等のベンチャーキャピタル投資以外のPE投資事業。
- ・11/3期より事業再構築の過程において取扱いを変更したファンドが除外されており、その影響額は合計で44社3,457百万円となります。

(単位:百万円)

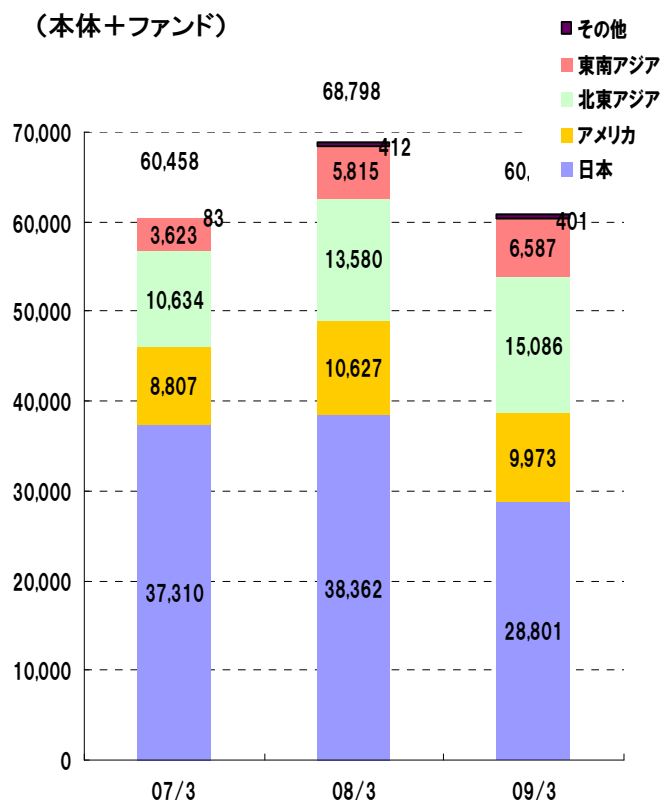


投資残高 – 地域別



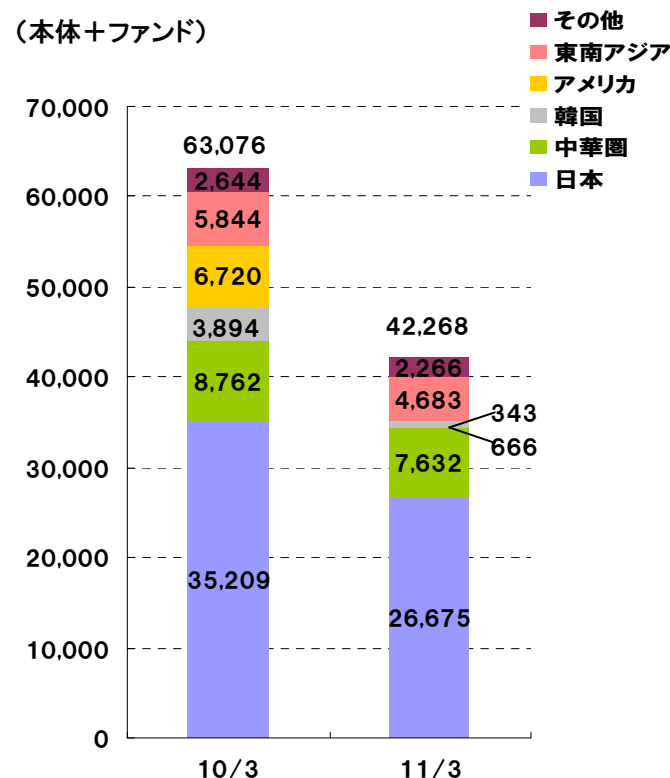
投資残高(VC)

(単位:百万円)



投資残高(VC+他PE)

(単位:百万円)



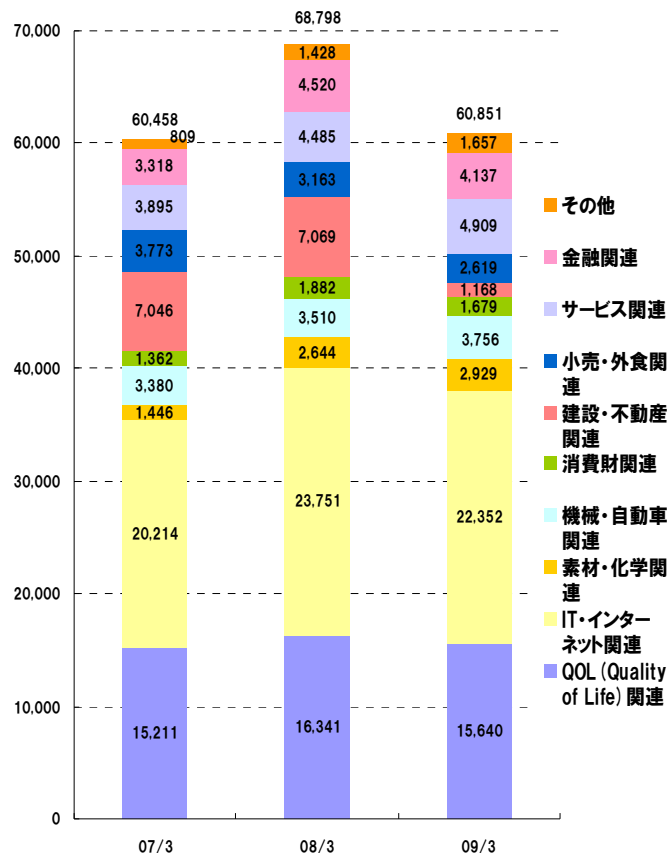
- ・その他には、PEセカンダリー投資を含めております。
- ・10/3期よりVCのみならずPEも含めた投資残高(VC+他PE)を開示しております。
- ・11/3期より事業再構築の過程において取扱いを変更したファンドが除外されており、その影響額は合計で44社3,457百万円となります。

投資残高 – 業種別



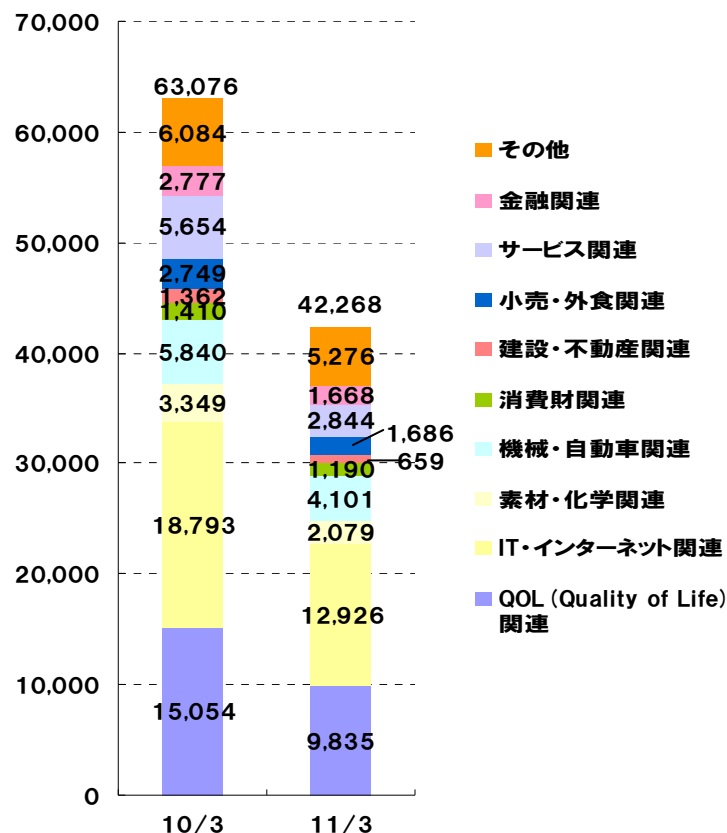
投資残高(VC)

(単位:百万円)



投資残高 (VC+他PE)

(単位:百万円)



- ・QOLとは、バイオ、医療機器、医薬品、環境、福祉・介護などの生活の「Quality of Life」を高める事業分野。金融とは、証券業・銀行業・生損保業、投資顧問業など。
- ・IT・インターネットとは、ITサービス、ソフトウェア、ハードウェアなどを含めております。
- ・10/3期よりVCのみならずPEも含めた投資残高(VC+他PE)を開示しております。
- ・11/3期より事業再構築の過程において取扱いを変更したファンドが除外されており、その影響額は合計で44社3,457百万円となります。

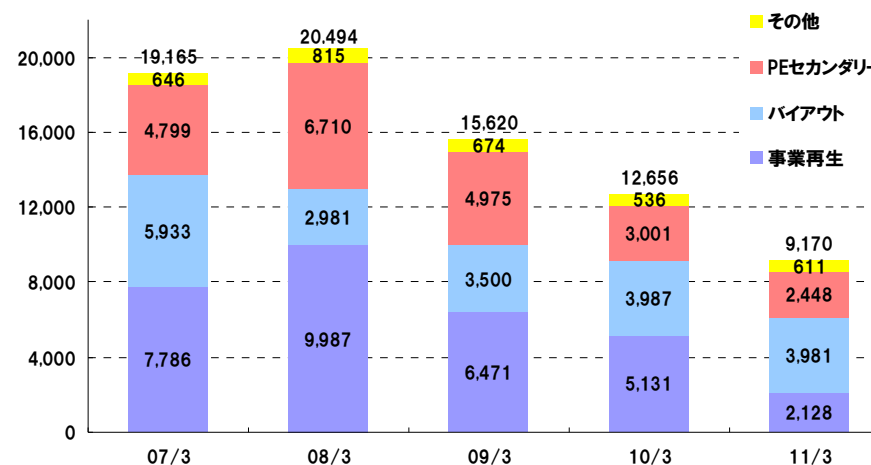
投資残高 – 他PE内訳



(単位:社、百万円)

	10/3			11/3		
	社数	金額	1社 当り	社数	金額	1社 当り
事業再生	15	5,131	342	7	2,128	304
バイアウト	12	3,987	332	12	3,981	331
PEセカンダリー	15	3,001	200	13	2,448	188
その他	16	536	34	17	611	35
合計	58	12,656	218	49	9,170	187

(単位:百万円)



(本体+ファンド、国内+海外)

11/3期より事業再構築の過程において取扱いを変更したファンドが除外されており、その影響額は合計で7社618百万円となります。

2011年3月期 決算/連結損益計算書の内訳



(単位:百万円)

<業務別>	07/3	08/3	09/3	10/3	11/3	増減率(%)	10/3	11/3	増減率(%)
	従来連結 基準数値	従来連結 基準数値	従来連結 基準数値	従来連結 基準数値	従来連結 基準数値		ファンド連結後	ファンド連結後	
1. 投資事業組合等管理業務									
管理運営報酬等	1,668	1,501	1,559	1,294	1,088	△16%	456	480	5%
成功報酬	1,895	1,006	268	461	295	△36%	449	248	△45%
営業収益	3,564	2,508	1,827	1,755	1,383	△21%	905	729	△19%
営業原価	-	2	-	-	-	-	-	-	-
営業総利益	3,564	2,506	1,827	1,755	1,383	△21%	905	729	△19%
2. 投資業務									
営業投資有価証券売却高	10,331	14,547	5,203	4,700	8,584	83%	6,511	9,929	52%
営業受取配当金・受取利息他	3,778	1,988	814	673	776	15%	761	859	13%
営業収益	14,109	16,535	6,018	5,373	9,360	74%	7,273	10,788	48%
営業投資有価証券売却原価/投資原価	3,218	5,960	5,022	4,450	6,680	50%	6,432	7,461	16%
営業投資有価証券売却原価/評価損	141	1,665	15,069	2,829	627	△78%	3,390	892	△74%
投資損失引当金繰入額	1,624	467	7,615	5,151	-296	-	6,193	-377	-
その他	350	540	509	398	191	△52%	440	311	△29%
営業原価	5,335	8,632	28,217	12,829	7,203	△44%	16,456	8,287	△50%
営業総利益	8,774	7,902	△22,199	△7,456	2,157	-	△9,182	2,500	-
3. その他									
営業収益	1,261	1,008	649	285	234	△18%	294	246	△16%
営業原価	817	537	266	183	83	△55%	183	83	△55%
営業総利益	444	470	382	101	151	49%	110	163	47%
合計									
連結営業収益	18,935	20,051	8,494	7,414	10,979	48%	8,474	11,764	39%
連結営業原価	6,152	9,172	28,483	13,013	7,286	△44%	16,640	8,371	△50%
連結営業総利益	12,783	10,879	△19,988	△5,599	3,692	-	△8,166	3,393	-
販売費及び一般管理費	5,023	5,328	7,698	3,787	2,399	△37%	3,544	2,239	△37%
営業利益	7,760	5,550	△27,686	△9,386	1,293	-	△11,710	1,154	-
経常利益	7,460	4,796	△28,950	△10,334	175	-	△12,679	111	-
当期純利益	3,767	3,049	△34,845	△10,903	△2,044	-	△10,889	△2,039	-

JAIC Update

2011/05/18

代表取締役 松本守祥

1. **事業環境認識**
 1. **マーケットの状況**
 2. **JAICの事業機会**
2. **2011年3月期 総括**
 1. **3つの重点施策のご報告**
 2. **既存投資先について**
 3. **投資実行・パイプラインについて**
3. **2012年3月期の重点施策**
4. **JAICの現状と将来**

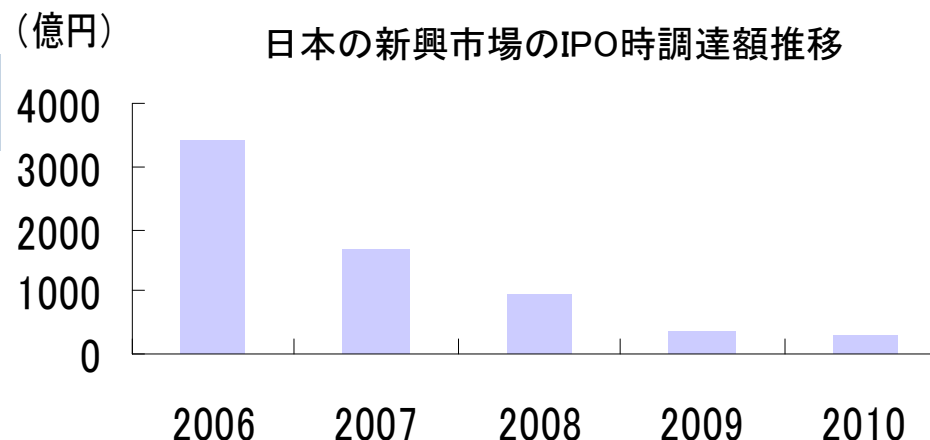
1-1 事業環境認識：マーケットの状況



グローバル経済において、当社が軸足をおくアジア地域は引き続き牽引役。
一方でプライベートエクイティのバリュエーションも高騰し、激しい競争下にある。

日本

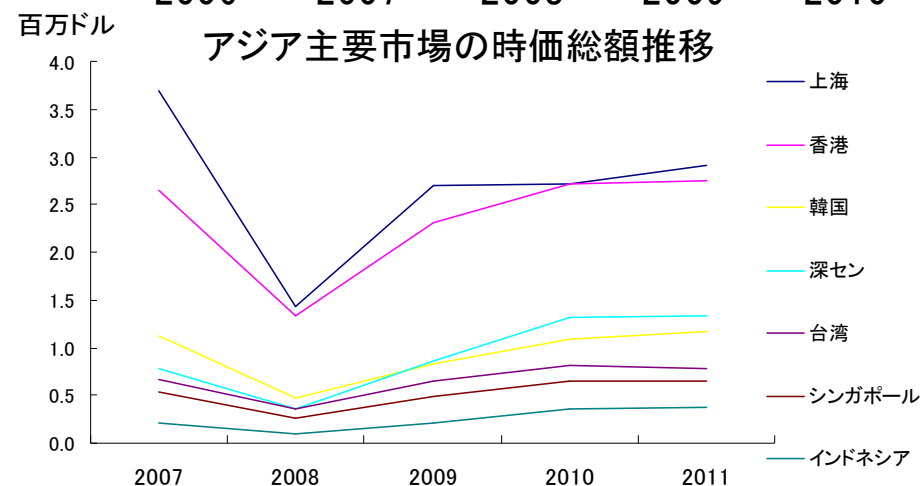
- 新興市場におけるIPOは低迷、資金調達額も減少



中国／その他アジア

- 好市況と好調なIPO：深セン321社（うち創業板116社）、香港87社、ベトナム191社、韓国56社

(2010年1月～12月)



(出所：World Federation of Exchanges)

1-2 事業環境認識: JAICの事業機会



各地域の投資先・投資候補先、事業会社のニーズと、JAICのソリューション

日
本

- ・業界再編(M&A、資本提携)による規模拡大、生産性向上
- ・成長ドライバーとして期待されるアジアでの事業展開
- ➔ アジアでの事業基盤の拡大、現地企業との技術・資本提携
- ・海外展開のための人材、情報が不足

海外展開のための
資金提供

成長戦略の立案

金融機関、事業法人
ネットワーク

中
国
・
ア
ジ
ア

- ・企業の国際化に伴う事業・資本提携ニーズの高まり
- ・コスト優位性を維持するための製造工程の効率化
- ・製造業における品質・安全性向上のための技術改善
- ・高騰するエネルギーコスト、環境問題に対する省エネ・新エネニーズ

2. 2011年3月期 総括

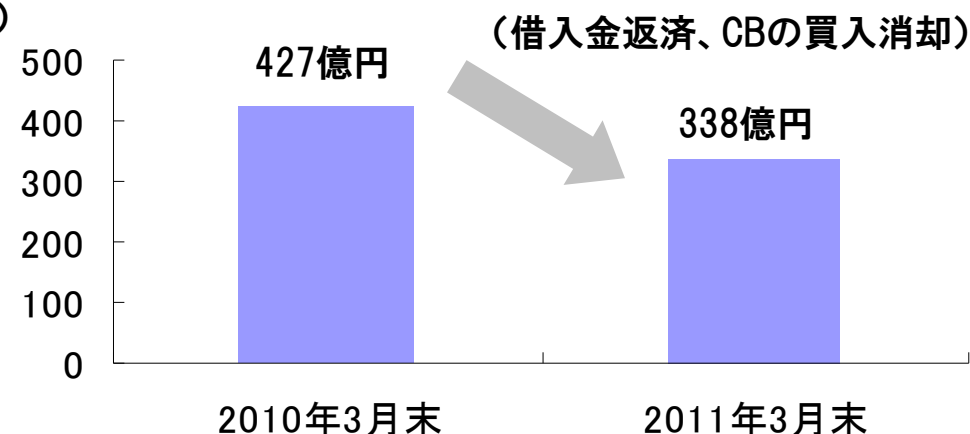


① 経常黒字化

()内は従来連結ベースでの前年同期との比較。)

- 実現CGの増加 (2億円→19億円)
- 償却・引当の減少 (96%減)
- 販管費削減 (37%減)

② 債務の圧縮



③ 他社との連携や協業の強化

- 瀋陽市政府／瀋陽国際ソフトウェアパークとの業務協力協定、ビジネス環境セミナーの開催
- ファーストブラザーズ(株)との事業再生ファンド共同運営
- 地方金融機関、日本M&Aセンター(株)とのセミナー開催

④ 投資領域の拡大深化

(株)ラクーン(証券コード:3031)の転換社債引受

東証マザーズ上場企業に対する成長資金の提供という点で、当社初の取り組み。

尚、当社においては今般の東日本大震災において直接の影響はございませんでした。

2-1 3つの重点施策のご報告



■ **アクティブ・ポートフォリオ・マネジメント**
リスク管理のためのモニタリングに
留まらない、積極的なポートフォリオ
運用

■ **アジア強化**
日本とアジアを繋ぐエージェント機能
の強化

■ **長期投資資金(ファンド)の調達**
投資家とのコミュニケーション強化と
優良案件を厳選した投資実行

1. 提携先紹介、追加投資など、重点投資先事業のサポートを推進
2. 組織体制、執行体制の強化
 - より効率的な組織運営と若手の登用による執行体制の強化
3. 中国現地法人の体制強化
 - 2010年10月より取締役が北京駐在
 - 2011年2月に中国事業部を新設、同4月に瀋陽オフィス設置
4. 新規ファンドの設立
 - 重点投資地域の中国で後継ファンド、「CA-JAIC China Internet Fund II, L.P.」を設立(2010年10月)
 - 複数の事業会社を戦略的投資家として迎えたファンド、「DFJ-JAIC Technology Partners, LP」を設立(2011年4月)

2-2 既存投資先について



トレードセールによるExitを推進し、複数の大型案件が収益に寄与。
役員の派遣や実働レベルの人的リソースの提供を通して、重点投資先のオペレーションを支援。

戦略的投資家への売却事例

2010年6月 PT. eTrading Securities

9月 システム機工(株)

2011年3月 JENホールディングス(株)

事業内容:工場向け電力・蒸気・水の生産、供給、販売、電気事業者向け電力の生産、販売

売却先:伊藤忠エネクス(株)

2011年3月 (株)イクヨ

事業内容:国内主要自動車メーカー向けの自動車内外装部品の製造及び販売

売却先:大連鵬成グループ(中国企業)

その他の取り組み事例

(株)エイタロウソフト

事業内容:3Dアバターシステムの開発

当社の紹介でカラオケ通信大手と協業。通信機器にアバターシステムを搭載。昨年に本格展開し、同社のアバターが広く普及した。

(株)白元

事業内容:日用雑貨の製造販売

当社のマネージャークラスの人材2名を専任に置き、同社オペレーションと生産管理システムの強化を図っている。今後は当社拠点とも協力し、海外事業の支援に取り組む予定。

2-3 投資実行・パイプラインについて

引き続き案件を厳選して投資を実行
各地域の成長分野において、投資パイプラインを拡充

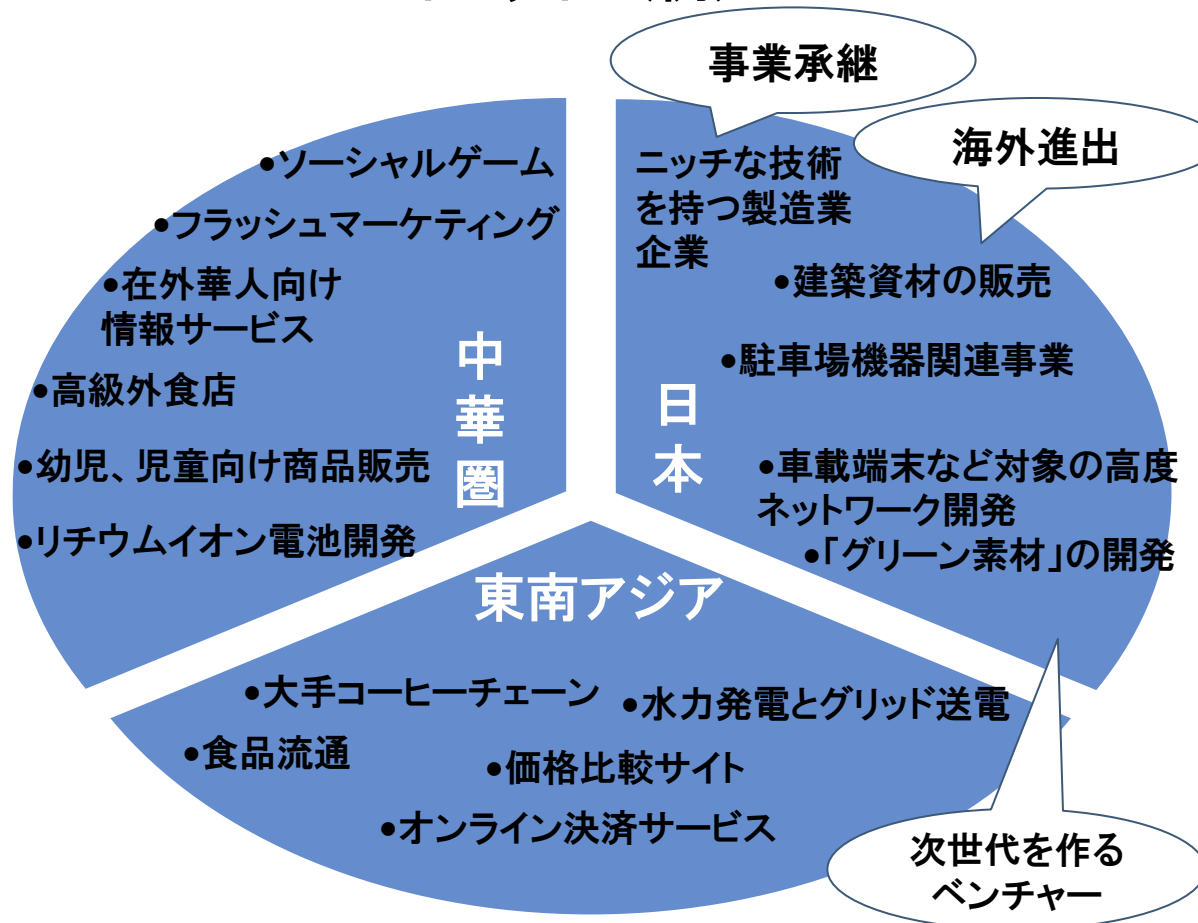
投資事例(日本)

PPCJ(株)

事業内容:CRO事業等

- 世界的に増加する国際共同臨床試験を受託するため同試験受託の豊富な経験を有する台湾企業と提携している。
- CRO業界における社長の実績、対象市場の成長性を高く評価し、投資実行。

パイプライン(例)



3. 2012年3月期の重点施策



アクティブ・ポートフォリオ・マネジメント

引き続き、投資先企業の企業価値向上に全社を挙げて取り組み、各投資先企業にとって最適なExitシナリオの描画とその実現により、投資パフォーマンスの向上を図る。

旗艦ファンドの設立

投資家のニーズに合致したファンドの組成を進め、特に重点投資領域である中国等で、今後の柱となるファンド設立に注力する。

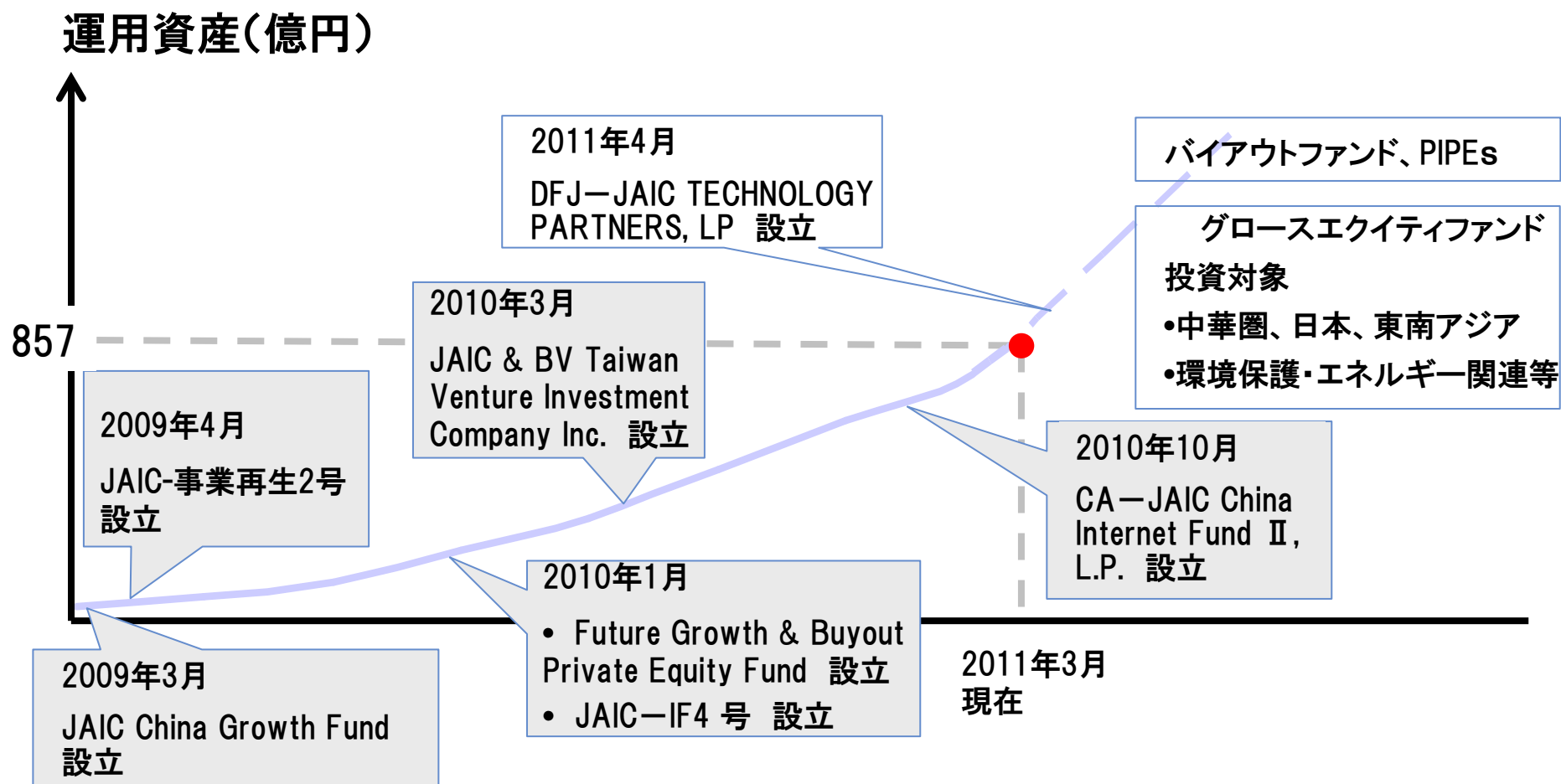
グロースエクイティの強化

実績豊富なバイアウトやグロースエクイティの投資機会に積極的に取り組み、成長分野の優良資産を積み上げ、よりバランスのとれたポートフォリオの構築を目指す。

4. JAICの現在と将来



過去2年間、厳しい環境下で堅調に各分野のファンドを設立
2012年3月期は事業再生計画の仕上げとして、“glocal”な投資体制の確立



JAIC

日本アジア投資株式会社

〒101-8570 東京都千代田区神田錦町三丁目11番地 精興竹橋共同ビル

代表 Tel(03)3259-8518 Fax(03)3259-8511

<http://www.jaic-vc.co.jp>

IRに関するお問合せ先:

取締役 下村哲朗

経営管理本部 山本

経営管理本部 丸山

IRに関するお問合せアドレス:ir@jaic-vc.co.jp

(ご注意)本資料に記載された意見や予測などは、資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご了承下さい。また、本資料は情報の提供のみを目的としており、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的とするものではありません。なお、本資料内の数値は全て連結ベース(ファンド連結基準・従来連結基準、ともにそれぞれ記載)にて表示しております。